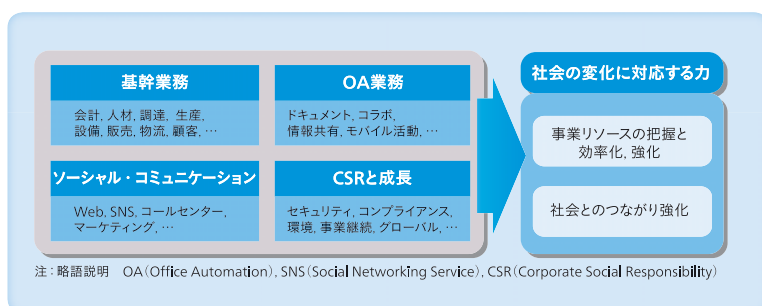


ITソリューション・サービス

企業や行政機関を取り巻く経営環境が急激に変化する中で、ITに求められる役割も効率性に加えて、安全・安心、事業リソース強化など多岐に広がっている。

日立グループは、経営ビジョンである「お客さまとの協創による社会イノベーションへの貢献」の下、最先端のITを軸に、技術・経験・ノウハウを融合させたITソリューションやITサービスを提供し、顧客のパートナーとして貢献していく。



1 ITソリューション・サービスが求められる分野

1 日立グループのITソリューション・サービス

世界が激しく変化する中、企業や行政機関には今後も起こりうる予期せぬ変化に対応する力が求められる。そのためには、みずからの事業リソースを管理・把握し、強化・活用を図ることや、社会とのつながりを強固にしていくことが重要である。

ここで紹介するITソリューション・サービスは、安全・安心な社会づくり（統合ID認証、指静脈認証）、人材育成を含む事業活動の管理・強

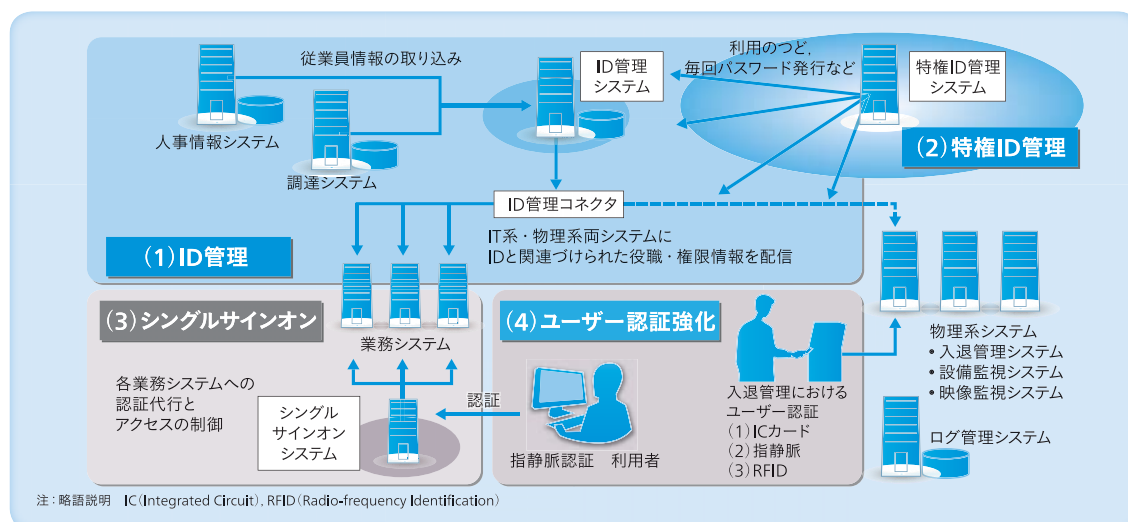
化〔物品管理、大学向け学習設計支援、日立IFRS (International Financial Reporting Standards) 導入支援、生産計画調整、グローバル時代のIT人材育成〕、グローバル展開や先端IT活用〔グローバルアーキテクチャ、GIS (Geographic Information System) データのフィールド分野での有効活用、次世代秘文、スマートフォンのエンタープライズ活用、Android*ソリューション〕など、今後の情報システムにおいて重要な役割を担うものの一例である。

今後も、社会課題の解決やビジネスの拡大に貢献できるよう、さまざまなITソリューション・サービスを提供していく。

*は「他社登録商標など」(150ページ)を参照

2 統合ID認証ソリューション

監査や内部統制の法的整備が進み、ID不正利用による情報漏洩（えい）事故が多発している昨



2 統合ID認証ソリューション

今、企業における統合的なID管理の整備が急務となっている。これに応えるため、「統合ID認証ソリューション」を提供している。主な機能は、以下のとおりである。

- (1) 利用者のIDを管理するID管理
- (2) 権限の高い特権IDを管理する特権ID管理
- (3) 各業務システムへの認証代行を行うシングルサインオン
- (4) 確実な本人認証を行うユーザー認証強化

今後は、物理系システムを含む多様なITシステムにおける情報リスクをカバーした、トータルセキュリティを推進していく。

3 「μ-Chip」Nモデルによる重要書類管理ソリューション

RFIDはさまざまな分野で導入が進んでおり、本格的な実用段階に入っている。中でも、金融機関が保有する重要書類の管理において、情報漏洩防止や業務効率向上の観点での活用が顕著になってきている。

従来、日立独自規格のミューチップにより、薄い書類を重ねて一括で読み取る技術を生かし、金融・公共分野に展開してきた。現在はこのミューチップの特長を確保しつつ、国際標準に準拠したUHF (Ultra High Frequency) 帯「μ-Chip」(超小型無線認識用ICチップ) Nモデルによるソリュー

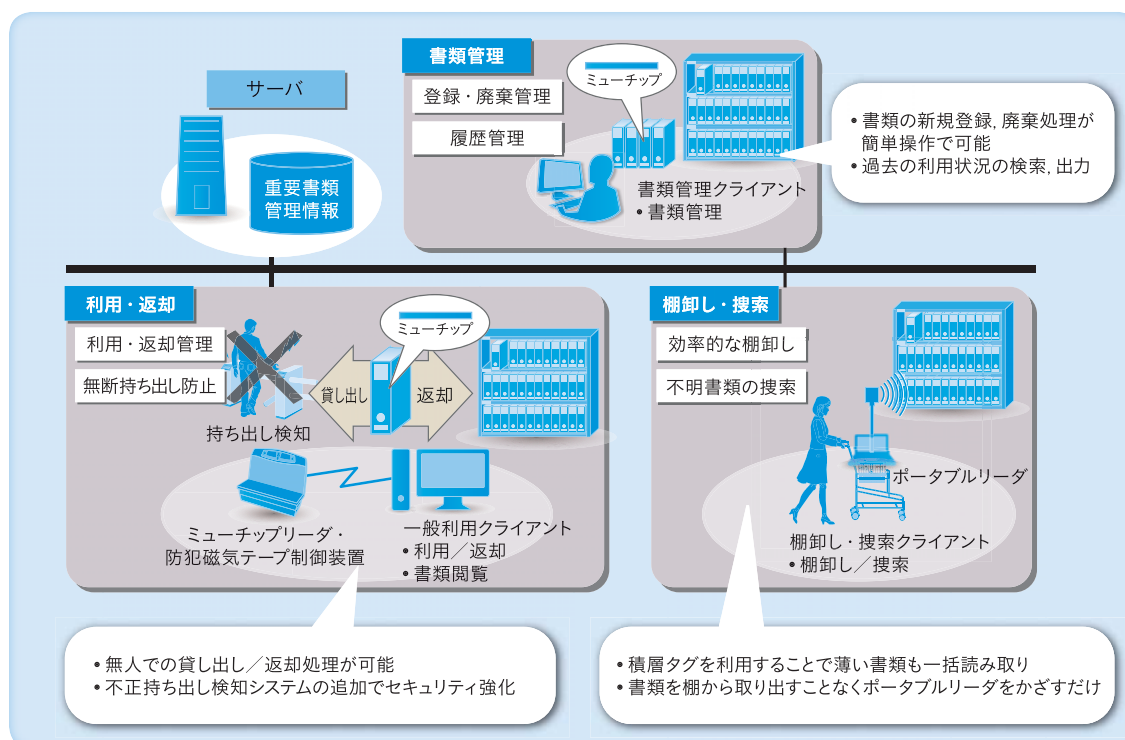
ションも提供している。これにより、読み取り距離の拡大や性能向上、RFIDへの情報の書き込み、海外への適用など、新しい分野や利用範囲の拡大が可能になり、より広く顧客ニーズに応えられるようになっている。

今後もRFID市場の動向を見据えて製品改良を継続し、真に価値のある製品・ソリューションの提供をめざして取り組んでいく。

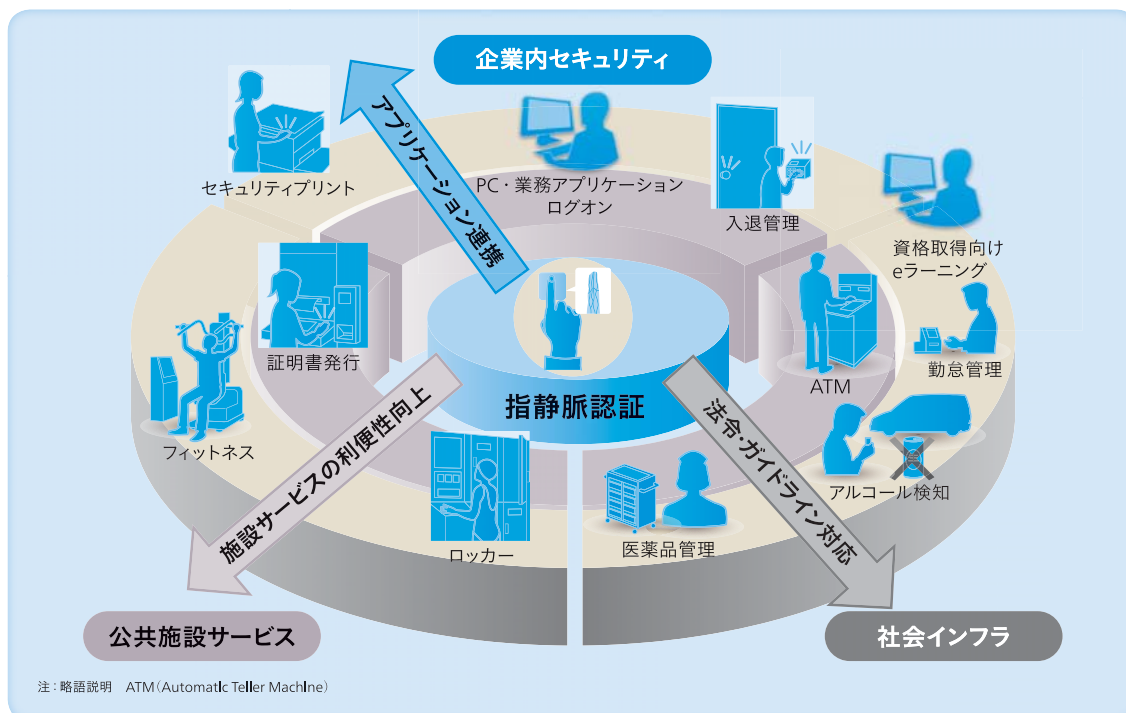
4 指静脈認証ソリューションの社会インフラ分野への拡大

指静脈認証装置の多くは、これまで企業内のITセキュリティや入退室管理の物理セキュリティなどの面で導入されてきた。しかし、ここ数年は、法令・ガイドライン改正に関連した分野への適用製品が大きな広がりを見せている。具体的には、2010年4月に施行された改正労働基準法、2011年5月に行われた事業用自動車の飲酒運転ゼロの目標を達成するための法令改正(アルコール検知器の使用を義務づけるなど)である。

これらの法改正に合わせて、勤怠管理ソフトウェア販売会社、アルコール検知器製造会社は、既存システムに指静脈認証装置を組み合わせ、なりすまし防止、カードなどの消耗品の削減、パスワード入力不要とする利便性の向上を目的とした製品を、相次いで市場に登場させた。これらの製



3 重要書類管理ソリューションの利用イメージ



4 拡大する指静脈認証ソリューションの利用領域

品は、正確な勤務状況の把握による過労死の防止や、確実な本人認証による飲酒運転の撲滅などに役立っている。

2012年には介護保険法の改正に関連した医療・福祉製品との連携も予想され、今後も指静脈認証ソリューションの社会インフラ分野への拡大が期待される。

5 大学向け学習設計支援システム「UNIPROVE/LE」

昨今、各大学は、学生の社会的・職業的自立につながる就業力の育成のために、学生みずからが「学び」や「育ち」に対して目標意識を持って臨むことができる環境を必要としている。

これに応えるため、成績や希望進路など、さまざまな学生情報を一元管理できるようにサポート

する「学生カルテ」機能と、学生みずからが目標の設定と改善に主体的に取り組めるようにサポートする「ポートフォリオ」機能を融合した、大学向け学習設計支援システム「UNIPROVE/LE」を開発した。この製品を、日立グループのソリューションサービス「IT Solution for Campus」の中で、学内に散在するシステム群のフロントエンドとして位置づけている。学内システムとの連携にはSOA (Service-oriented Architecture)を採用し、データの一元化とリアルタイム性を維持するなど、情報システムの最適化を意識したパッケージシステムである。

6 日立IFRS導入支援ソリューション

IFRS (国際財務報告基準) は、2007年のEU諸国での強制適用に続き、国際的な会計基準の統一に向けて全世界に広まりつつある。日本においては、早ければ2015年での強制適用が想定されていたが、2011年6月に金融庁からIFRS適用には5～7年の準備期間を要するとの発表があり、IFRS対応を検討するための時間は当初の想定より長く確保されている。

このような中、日立グループは、2011年にIFRS強制適用を実施した韓国に着目し、LG日立 (LG Hitachi Ltd.) の協力により、韓国・LGグループの総合ITソリューション企業であるLG CNS



5 大学向け学習設計支援システム「UNIPROVE/LE」の「学生カルテ」と「ポートフォリオ」の画面例